

「土木広報大賞 2018」応募用紙

団体名：一般社団法人 ツタワールドボク

土木広報活動または作品名：ツタワールドボク

広報活動または作品の概要

- 活動概要** 産学官の土木技術者と市民(伝えるプロ：広告代理店、新聞社、映像制作会社等)が共同して、土木の意義や魅力を市民に伝える活動を企画・実施し、その手法を検証して学び合うプラットフォーム。
- 活動の歴史** 2013～2014年度は(一社)九州橋梁・構造工学研究会のツタエルドボク研究分科会(産学官市民計 35名)、2015～2016年度は同団体のツタワールドボク研究分科会(同計 47名)として活動し、2017年度からは一般社団法人ツタワールドボク(企業会員 8社、個人会員 55名)で活動を拡大・継続中。

3. 実施体制と内容

PDCA を実践するプラットフォーム		実施	広報内容	
2016年度	市民WG：市民に対する広報活動		別添 a 天神ドボク大学 2017.3	
	技術者WG：土木技術者に対する広報実践の啓蒙活動		別添 b ツタワールドボク学会全国大会 2017.10	
	ITWG：SNS・HP など IT を活用した広報活動		別添 c 架け橋プロジェクト 2016～継続中	
2017年度	運営委員会：土木業界内外を問わずイベント等を行う広報活動		別添 d 情熱土木写真塾 2018.3	
	広報委員会：SNS・HP などの IT やパブリシティを活用した広報活動		別添 e レギュラーラジオ番組 2017	
	事業委員会：ツタワールドボク活動を継続するための広報収益事業活動		別添 f ツタワールドボク趣旨動画作成 2017.6	
			別添 g IT を活用した広報 2016～継続中	
			別添 h 講師・講演活動 2016～継続中	
			別添 i 執筆・連載活動 2016～継続中	
		別添 j カンボジアプロジェクト JICA 2017.11		
		別添 k 企業・事業 PR 動画作成 2017		

広報活動の効果

- ツタワールドボク活動自体の効果** 直接的な広報効果に加えて、産学官の技術者が共同で PDCA を実践することにより、市民との直接コミュニケーションから得られる自身の仕事への誇りの再認識や、各自の組織における啓蒙活動が自主性に促される。加えて、伝えるプロが参画してくれることにより、客観的な検証や、指摘事項を学ぶ機会を得ることで、スキルの向上にも繋がる。また、参画する技術者自らが楽しむ姿を SNS 等に投稿すること、メディア露出の機会の増加、講演機会が全国的になってきたことにより、全国で同様の志を持って広報活動を行う人々に勇気と刺激を享受する。最近では全国からの会員参画も増加している。
- 広報実施内容の効果** 個別の効果を計る数値的情報は別添資料に記載する。ここでは、企画の特筆すべき事項について記載する。架け橋プロジェクトは、学校教育とのコラボレーションであり、美術と工学の複合科目授業である。2016～2017年は熊本地震に被災した熊本県立宇土中学校において、18コマの授業にて、ペーパーブリッジを作成した。過程の中で、力学などを工作等で試行錯誤しながら学び、材料の消費がコストと環境破壊に直結することを学ぶ。そして、美的センスを持ってデザインしたペーパーブリッジを完成し、教育関係者、マスコミ、父兄への公開授業にてコンテストを行うことで、広報の拡散を図った。

付属資料の提出 あり・なし (どちらかに印 (■) を付けてください。)